

---

口頭発表 | 5. 畜産物利用

## 畜産物利用

座長:佐々木 啓介(農研機構畜産部門)、船津 保浩(酪農大食と健康)、川井 泰(日大生資科)、重盛 駿(信州大農)  
2019年9月18日(水) 13:30 ~ 16:20 第II会場 (7 番講義室)

II-18-01~II-18-04 : 佐々木 啓介

II-18-05~II-18-08 : 船津 保浩

II-18-09~II-18-12 : 川井 泰

II-18-13~II-18-16 : 重盛 駿

---

14:40 ~ 14:50

### [II-18-08]イルカ用代用乳創製に向けた3種イルカの乳成分の比較

\*小島 春花<sup>1</sup>、菊池 美江<sup>2</sup>、奥山 康治<sup>3</sup>、白形 知佳<sup>3</sup>、高津 智和<sup>4</sup>、植田 啓一<sup>5</sup>、鈴木 美和<sup>1</sup>、増田 哲也<sup>1</sup>、川井 泰<sup>1</sup> (1. 日大院生資科、2. 日大生資科、3. 新江ノ島水族館、4. 城崎マリンワールド、5. 沖縄美ら島財団)

【目的】水族館では、母イルカが育児放棄した場合などに人工哺育が試みられている。また近年、JAZAによりイルカの追い込み漁が禁止され、加盟水族館におけるイルカの入手方法が自家繁殖のみとなり、繁殖率の向上という点で人工哺育の重要性が増している。現在イルカ専用の代用乳が存在せず、動物用代用乳にサプリメント等を添加して与えているが、死亡例が多い。そこで本研究では、イルカ用代用乳の創製を目的として、イルカ乳成分の種間の相違について確認することを目的とした。【方法】新江ノ島水族館のハンドウイルカ（分娩後181~391日目の乳）の、城崎マリンワールドのカマイルカ（分娩後435~471日目の乳）の、そして沖縄美ら海水族館のマダライルカ（分娩後12日目の乳）の乳成分（全固形分含量、タンパク質含量、脂肪含量、乳糖含量、タンパク質組成、遊離アミノ酸組成、脂肪酸組成）を定法に基づいて分析した。【結果】カマイルカの全固形分含量は他2種と比較して顕著に高く、タンパク質含量も同様の傾向であった。一方、カマイルカの乳糖含量は他2種と比べて顕著に低かった。これは、他2種と比較してカマイルカは寒冷地に生息しているため、乳糖よりもエネルギー効率の良い脂肪をエネルギー源にしているためと考えられた。しかし今回の供試試料は、採取した分娩後日数や季節が揃っておらず、今後、さらに泌乳期や季節による影響を考慮した検討が必要である。